

# Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

## 手の温もりと癒やしをアートに託す

②51 埼玉慈恵病院 埼玉手外科マイクロサージャリー研究所(埼玉県熊谷市)



前身の西田医院開院から121年を迎える埼玉慈恵病院

西田医院として1903(明治36)年に開設して以来、120年以上に亘り地域の医療を見守り続けている埼玉慈恵病院は、患者、職員、地域社会への貢献を病院の理念に掲げている。

院内のデザインは「無機質になりがちな病院に、温かさや柔らかさを取り入れ、患者や家族の緊張や不安を和らげたい」という久保寿朗病院長の思いを反映し、「丸み」を感じられる様工夫した。待合室の天井には円を描き、間接照明が柔らかな印象を与えている。又、明るく清潔感のある白と「慈恵ブルー」、温かみの有る木や布等の素材をふんだんに使い、大きな病院にありがちな硬い印象にならない様に配慮している。スタッフの笑顔や朗らかな挨拶も院内の雰囲気

を明るくしているが、これは西田貞之前理事長の熱意によって導入された、職員の成長と幸せを目指して行っている「幸せ研修」の効果だろう。院内には「Positive Room」「Win-Win Room」「Happiness Hall」と名付けられた研修室が設けられ、職種を越えた学びの場となっている。

そうした同院がホスピタルアートを導入したのは、2019年の「埼玉手外科マイクロサージャリー研究所」の開設が切っ掛けだった。同研究所は、手を中心に肘関節迄の上肢の外傷を専門に診療しており、新しい治療法の研究や専門医の育成、海外留学生の受け入れにも取り組んでいる。年間1000件を超える手術を行い、全国でもトップクラスの診療実績を誇る同研究所には、県内外から多くの



重なり合う手のひらをモチーフに、患者様やご家族に寄り添う気持ちを表す



福本恵三所長をイメージしたキャラクターの「てげくん」



優しい色合いのアートが診察室の緊張感を和らげる



作品を手掛けた村岡ケンイチ氏と福本恵三所長



手にまつわるアートを展示した手外科待合室のギャラリー



手専門のリハビリテーション(ハンドセラピー)を施すハンドセラピー室

患者が集まる。この研究所に外来診察室や検査室、手術室、トレーニング室等を備えた手外科専用のフロアを設ける為4号館の建設を計画したところ、ホスピタルアーティストの村岡ケンイチ氏から「診察室に壁画を描いてはどうか」との提案を受け、所長の福本恵三医師も「安心して診察を受けられる様な、優しく、楽しい空間にしたい」と賛同。アートのテーマは「つながりの部屋」とし、村岡氏や福本所長らが一緒に構想を練った。柔らかなタッチの手のひらをモチーフにした背景に、福本所長をイメージした「てげくん」が、「手」の形の気球に乗って世界中を旅しながら各地で治療をする姿に、「手外科」を広く知って欲しい、という福本医師の思いが込められている。

手外科待合ホールには「手」にまつわる絵画やポスター、オブジェ等を展示。施設内に溢れる温かみの有るアートは患者から好評で、職員からも「手外科の診察室で仕事をすると癒やされる」という声上がる程だ。又、病院の本館1階の待合室ギャラリーでは、地域の小学校の児童による絵画や書道の作品を展示し、地域とのコミュニケーションの場ともなっている。

「質の高い医療」「安心・安全な医療」に加え、「ぬくもりのある医療」を掲げて100年以上の時を刻んで来た病院は、この先も地域の医療を温かく包み込んで行く。

4号館設計：田口航平建築設計事務所、同建築・施工：(株) 藤岡部工務店、(株) 藤東電工社、(株) 富士メンテナンス